

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800678		
法人名	社会福祉法人 くすの木会		
事業所名	グループホーム いずみ		
所在地	栃木県小山市高崎128-1		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルワーク共同事務所内)
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、あたりまえ(普通)の生活にこだわり、積極的に外に出かけて、その場で出会った方々との触れ合いを大切に日々生活しています(地域の行事、日帰り旅行、美術館、神社、歴史博物館、ディスプレイ、映画館、外食など)。年間を通して保育所との交流を行い、先生・園児との交流を図って、園児たちから元気パワーを頂いています。
グループホームの生活の様子を知って頂くために、地域全戸(約1,340戸)に「いずみだより」を年4回、回覧させて頂いています。
入所者が毎日仲良く生活し、「今日は楽しかった」と言う声を聞くために、日々努力しています。一人ひとりが自立した生活を一日でも長く続けられるように支援し、笑顔のあるホームです。本年度は、くすの木会全体で合同レク(1回/W)を実施し、それぞれが自分の好きなレクに参加して、楽しいひとときを過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りは田園風景が広がり四季の移り変わりを充分に感じられる場所にあり、日々の散歩でも安心して移動ができるようになっている。「あたりまえの生活」を追求し続けており、本人本位で真剣に取り組みがなされているホームである。周囲に民家が少ない為、ホームから積極的に外出をして顔なじみの関係を作り上げている。家族とも利用者を中心として大きな家族のような関わり方の中で自然と家族にとっても居心地の良い場所となっている。見守りという言葉を実践するために職員全員で支援内容を検討し、職員同士も信頼関係の中で個々の役割を果たしている状況が強く見受けられた。また、利用者に対しても最期の場所として看取りに対しても積極的に行っており、利用者を含め全員で最期のお別れをしていたり、生前の様子をデータでまとめて記念にしているなど、関わりを持った方々への心配りが行き届いているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(社)くすの木会基本理念に基づき、最後まで「人間らしく生きる」を日々考えて、入所者と共に生活し、グループホームの介護理念「入所者も職員も笑顔のある生活」を常に考えて実践しています。	3～4年程前に職員が話し合いを行いホームの理念を作った。採用間もない職員に対しても学ぶことになっており、全員に対しては日々管理者が繰り返し伝えながら実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に対しては、常に参加させて頂き、交流を持つように努力している。 また、地域の職員も数人いるので気楽に話しをして頂いています。	近隣には民家が無いが物産店や魚屋、床屋などにも馴染みの関係となっている。魚屋ではおまけをしてもらったり、理美容院では利用者にエステをしてもらう事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習などに参加(講習者として)させて頂いている。 「いずみだより」を年4回発行し、認知症の豆知識などを載せている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の割合で委員会を開催している。 活動報告、介護保険情報、行事の内容などについて話し合いをしている。 食事会などにも参加して頂き、家族との交流も図っている。	参加者は地域の理事、議員、元校長、地域包括支援センター等で構成され、2ヶ月に1度開催されている。他のグループホームの職員も参加した事があり、幅広い立場の方が参加している。	参加者の範囲として市担当者が参加をすることで、より地域での役割も見出せると思われるので、呼びかけをしながら実現できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことがあれば、相談したりしている。 町づくり出前講座の認知症サポーター講座に関りながら、グループホームの現状などを伝えている。	市からの依頼で街角出前講座の講師として職員が協力をしている。講師役としては職員2名が対応できるようになっている。講座は事例を通して説明しながら参加者に分かり易い工夫をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	くすの木会全体で「身体拘束は、しない」を目標にしているので、行っていない。 玄関も鍵などかけず、自由に出入りが出来るようになっている。 常に見守りを行い、本人の意思を尊重している。	研修や日々職員に対して管理者が身体拘束に対しての話をしている。職員全員で利用者への見守りを徹底しながら、外に出ている利用者に対してはその人一人ひとりの対応を考え、距離感も大切にしながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで、勉強会を行う。 また、新聞・報道などで話題になったときなどは、その都度、皆で話し合うようにしている。 (ミーティングなどで)	/	/

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターよりパンフレットを頂いてきて、玄関に置いてあり、誰でも見れるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に項目ひとつひとつ読み上げて確認しあい、不明な点は質問して頂き、お互いに納得するように説明している。 入所後も、その都度対応する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は、日々の生活援助の中で聞いて実践 年1回、アンケートを実施しており、その中から意見なども聞き、できることは、即実行できるようにしている。	年4回程、家族会を開催して食事会も行っている。参加者は利用者の孫の代まで来ており、総勢40名以上となっている。家族の訪問は平均月1回ほどであり、その都度聞きだしながら申し送りで職員全員が周知できる体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、会議、5分間ノート、日々の会話の中から意見や提案を聞いている。 力量評価(月間、年間)の中からも必要と思うことは、反映している。	毎月1回2時間ほど、午後を利用して全職員を対象とした会議を行っている。職員の自己評価も毎月行いながらお互いに伝え合う体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に年間目標をかかげ、業務に関っている。また、それぞれに役割を持たせて実行できるようにしている。 外部研修などにも参加して、スキルアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量評価を通して、個々の評価を行っている。 内外の研修も自由に参加している。 「おもてなしの研修」に力を入れて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のGHの職員の見学や話し合いの場などを設けている。 また、研修生の受け入れを行い、お互いにスキルアップできる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学申し込み時に家族・本人の希望を伺い、入所面接時にはお互いの希望・思いを聞く。申し込み期間中にも遊びに来て頂けるようにしている。馴染みの関係を築きながら、思いを聞き出せるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に担当ケアマネ・家族より情報入手本人の生活歴や今までの支援経過を伺う。本人の思いを大切に本人が不安にならないように使用中のものを持参して頂き家庭の延長のような環境に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の求めていることを第一優先にして援助していく。 他のサービスを利用することは考えず支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	庭の掃き掃除、草取り、家事(食事の下ごしらえ、掃除、選択たたみ)などのうち、本人のできることを行って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会(年4回)、担当者会議、面会時などに日々の様子を伝え、できるだけ家族・姉妹の力を借りながら、本人の思いを叶えてあげる関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係が疎遠にならないように、面会・行事などには、必ず参加して頂き、多くの関わりを持つよう努力している。 面会の声かけなども積極的に行っている。	買い物で出掛ける場所では顔なじみとなっており、サービスをしてもらえるまでの関係となっている。利用者が亡くなった場合には利用者や職員全員が通夜等に参列してお別れのことも贈っている。利用者の写真をまとめて家族に手渡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い、意思疎通がうまくいかずに言い争いもあるが、認知症なので忘れてしまうこともあり、時間がたつと和やかに話をしている。 自己主張の強い人もいるので、本人が好きなように生活できるように支援している。		

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了した方はすべて死亡だが、その後も家族との交流は続けている。 命日などにお墓参りに行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング、担当者会議、日々の生活の中での会話で、本人の希望などを聞き、出来ることは可能な限り叶えられるようにする。	管理者が利用前にアセスメントを行っており、日々の中では職員が共有しながら本人の意向をまとめている。外出への希望が多い為、計画を立てながら実現できる工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所間もない人にとっては不安があるので、慣れるまでは関りを深くし、信頼関係を築くようにしている。 支援の方法でうまく出来たことなどは、継続出来るような体制にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを通して一日の生活を援助している。 ADLの変化にもすぐに気付き、対応することによって、今も維持出来るようにする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望むことをプランに生かし、本人・家族、職員と共に話し合っ、一人ひとりが楽しいと思える日々が送れるようにプランに生かしている。	3ヶ月に1度担当者が聴き取りをしながらモニタリングを行っている。変化に応じて随時の変更にも対応している。本人や家族の他、主治医からの指示も入れて作成をし、管理者が最終チェックをしている。	チームで作成内容として具体的な面もあるが、計画全体を構成する核となる部分が明確化されると、より効果が出ると思われるので、検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録と活動記録にわけて記入しているので、職員間での情報共有ができています。 5分間ミーティングノートにも日々の記録が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症が進行しても、本人の思いも酌み、家族と共に話し合い、今必要な支援が出来るように取り組んでいる。		

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に対しては、常に参加させて頂き、「グループホームいずみ」を理解して頂いている。保育所との交流を年間通し実施しているため、子供達の明るい元気な姿に勇気を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医がいるので、本人は安心して生活が来ている。 急変時などにも相談に乗って頂き、すぐ対応して頂いているので安心している。	基本は家族対応となっているが、殆どの場合には職員が対応している。協力医も往診が可能であったり、24時間指示が受けられる体制となっている。病院とのつながりも良好である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時には、特養の看護師がすぐに対応して頂けるし、困ったときにはすぐに相談もできるので職員も安心して日々の支援が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医・家族との連携を図り、早期退院を依頼し、ホームに戻ってこれるようにお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(社)くすの木会全体でターミナルケアマニュアルを作成し、手順に従って支援している。本人はもちろん家族の思いをしっかりと受け止めて主治医と相談しながら支援を行っている。	看取りを行っており、利用者が食べられるものを作りながら対応している。医師からの指示も随時ある為、家族からの希望を叶えており、最期の場所として役割を果たしている。本人を中心におきながらその方の人生を振り返りながらケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(社)くすの木会で急変等に対する訓練を実施している。 また、グループホーム会議などでも、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、日中・夜間を想定して実施している。災害に対しては、非常食品を準備し、毎日チェックを行っている。 地域の方々には、くすの木会全体で協力が得られるようにしている。	法人全体として毎月計画をしながら実施している。特に夜間想定で職員が実践できるように訓練している。浴槽の水も消火で使えるよう少し残している。	法人全体としての協力体制は整えられているが、地域(自治体)としての体制が強化されて行く事を今後も期待したい。

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して、解りやすいことばがけをするように心がけている(方言など) 本人の嫌がることは話題にせず、関わらないようにしている。	職員は利用者との心や身体の距離感を大切にしながらケアをしていることが見受けられた。居室にいる時には声掛けをあまりしなかったり、「その人の世界を荒らさない」という徹底した支援が確立されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり、その日その日の能力に合わせて援助し、選択肢を多くして、自分で自己決定して行動できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた援助を優先し、押しつけた援助はせずに、自分らしい生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの床屋に行き、自分の好みに合わせて髪型なども整えている。 衣類も家族に依頼し、持参して頂く。 本人の希望でお店と一緒に出かけ気に入ったものを購入して頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予定週間メニューは作成するが、その日の利用者の食べたいものを伺い対応することもある。日々の会話の中で一人ひとりの好みを把握しながらメニューを立てる。下ごしらえ、後片付けなどは一緒に行う。	配膳や下膳も利用者が当然のように行っており、ランチョンマットは自分で洗濯機に入れている。また、箸は箸箱で持ち運びをして、混乱を防いだり、衛生的にも配慮しながら食事が楽しめるよう工夫している。盛り付けも目で楽しめる状況である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は本人の思いを重視し、好き嫌いもあるので、その時は代替で提供している。 水分は、一日1500ccを目安に摂取している。食事時間もその人に合わせて、1時間以上かけて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は、声かけし、毎食後行うようにしている。 介助の人は、毎食後実施 歯科受診を希望される方は、その都度対応している。		

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で管理している。 全員トイレでの排泄を行っている(夜間も)その人の排泄パターンでトイレ誘導を行っている。	夜間もトイレで排泄ができるよう夜2回は誘導している。オムツに頼らないケアの研修を繰り返し、オムツ外しの実践も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取を優先し、水分を多く取るようにしている。便秘の人に対しては、漢方薬、乳製品、食物繊維などを多く取るようにしている。 主治医と相談し、下剤を服用することもあ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3回/Wの入浴を実施(基本) 拒否のある人は、無理せずに本人の入りたい時に声かけしている。 本人の希望があれば、毎日で入浴可	15時から17時半を基本として入浴しており、失禁時にはそのまま入浴となる場合もある。拒否となる場合には職員を交代しながら促がして負担のかからない状態で入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日午睡は実施(1時間程度) 就寝時間もその人の希望に合わせて行っている。 暖かい日には布団を干して気持ちよく安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成しているため、一人ひとりが服用している薬が理解できている。 食後に一人ひとりに渡し、服用したか確認している。 自分でできない人は介助にて服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動、散歩、レクなど本人が喜ぶことを一緒に行っている。 また、ボランティアの人の演技なども楽しみにしている。 新聞、雑誌などもよく読んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、必ず散歩に行く(その人に合わせた方法で)。食材を買いに一緒に出かけ食べたい物を購入。ドライブも多く出かける。入居者の方が探した観光地に行ったりしている。職員も連れて行ってあげたい所を年間計画に入れている。	以前はバスの利用も行っていたが、ステップが上がれない利用者が増えてしまい、現在はホームの専用車を利用して外出している。また、あぜ道が続いている場所であり、ゆっくりと時間をかけながら季節を感じて散歩をしている。週2~3回は必ず買い物に出掛けている。	

グループホーム いずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などに、おこづかいを本人に渡し、自分の好み物を買い、自らお金を払うように支援している。 小銭は、自分で管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人が希望する時には対応 自ら電話をかけたいとの要望はない。 手紙も来るが、返事を出すことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木鉢を置き快適空間を保つ。リビングには陽射しが入り快適な生活。各トイレはエアコンにより温度差がないようにしてある。食事の時は必ずCDを流し、楽しく食事が出来るようにしている。各部屋には自分の作品などを飾り、心が和むようにしている。	利用者の体感を大切にしながら温度差がないように配慮している。ホールは床暖房となっている為、足下も温かい。季節感を出すために、スリッパを変えてみたり、職員のエプロンを変えてみたりとさり気ない工夫を沢山行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を数ヶ所に置き、目隠しになる部分があり、一人ひとりが思い思いの場所で、気の合った仲間と話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具などを持ち込んで頂き、安心できるようにしている。 部屋には椅子などを置いて、面会時などゆっくり話が出来るように、家族の方も工夫して下さっています。	ベッド以外は持込となっており、壁紙やカーテンなども個人のものを使用している。認知症への配慮も行っており、居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の部屋は、壁紙・カーテンなどを別にして、視覚で自分の部屋が認識できるようにしている。 ベランダも長くして、自由に散歩が出来るようになっている。		